

令和7年度 神石高原町立油木小学校 学校評価自己評価表

学校教育目標			自分が好き みんなが好き ふるさとが好き～ ～ゆめに向かって きらきら輝く子～		達成度＝達成値÷目標値×100 評価 A：目標以上 B：達成度が目標の80%以上100%未満 C：達成度が目標の60%以上80%未満 D：達成度が目標の60%未満							
ミッション	中期経営目標	短期目標	具体的行動目標と手だて	評価指標 （評価項目・目標数値）	9月	9月	中間 評価	2月	2月	最終 評価	評価結果と課題の説明（中間）	評価結果と課題の説明（最終）
					達成値	達成度		達成値	達成度			
地域と共にある 明日も行きたい 通わせたい学校	「わかった」「できた」「伝えたい」がある授業を通して、自ら学ぼうとする意欲や協働的に問題解決できる力を育てる	・ユニバーサルデザインやPBSの考え方を基盤として、授業を実践し、学習意欲の向上を図る ・基礎学力の定着とともに思考力・表現力を育てる	・PBSの考え方を基盤とし、ユニバーサルデザインを効果的に取り入れ、児童の学習意欲の向上を図る。 ・複式授業の確立、つまずき等に対する個別の学習支援を通して、個々が学び方を身につけることで、主体的に取り組み、基礎基本の定着を図る ・ICTの活用や学習方法の選択ができる場を設けることで、協働的な学びの充実を図る	・毎学期、学期末テスト（国・算）の到達度を上回る児童の割合を75%以上にする。 ・標準学力調査において、全国平均を上回る児童の割合を国語科65%、算数科75%以上にする。								
	地域での学習や体験活動を通して、地域を知り、地域貢献意欲を高め、故郷への愛着や誇りを育てる	地域を題材とした学習や体験活動を推進する ・生活科 ・総合的な学習の時間 ・行事等（本物体験） ・ゆきっこみらいとの連携	・地域の文化、伝統、産業、福祉について、興味関心に基づいた課題設定を行い、探究的な学びを進める。 ・地域資源を活用した多様な体験活動を設定したり、地域の行事に参加し多くの人と触れ合ったりすることで、地域のよさや魅力を体感し、地域に貢献しようとする児童を育てる。	・5、6年生の児童アンケートで、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 「地域のために自分のできることをしたい」 「地域の課題やよさに気付くことができた」 ・3、4年生の児童アンケートで、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 「地域のことが好き」 「地域のことを大切にしたい」 ・1、2年生は、「地域のすてき」を5つ以上言える児童の割合を80%以上にする。								
	肯定的で明るい支持的風土を醸成し、変化や失敗に柔軟に対応できる、しなやかでたくましい心を育てる	良好な人間関係づくりを通して、非認知能力を高める	・生徒指導の三機能を活かした教育活動を充実させる。 （教育活動全般において、自己存在感を与える場、自己決定の場、共感的人間関係を活かした活動をする。） ・学校行事において、企画段階から児童版「プロジェクトチーム」を立ち上げ、自己決定させ、自分から挑戦し、自己の成長を感じることができる児童を育てる。（運動会、学習発表会、本物体験活動、卒業を祝う会）	・児童アンケートで肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 「自分はまわりの人から認められている」 「自分の行動は自分で決めている」 「相手の気持ちを大切にしている」 「友達と協力しようと思う」 「新しいことに挑戦しようと思う」 「困ったことがあっても、乗り越えている」 「何事も最後までやり抜くことができる」								
	働き方改革と人材育成を推進し、ワーク・ライフ・バランスとウェルビーイングを実現する	ワーク・ライフ・バランスを大切にする職場風土をつくることで、自他のよさを認め合い、自己有用感を高める	・一斉定時退校日を設定する。（毎週火曜日は17時30分退校） ・学校衛生委員会を計画的に実施し、教職員の状況を把握し、必要に応じて個別面談を行う。 ・誓会等で児童の様子を全職員が共有することで、児童の成長をみんなで喜び、対応は組織的に行う。 ・自分で見通しを持ち、時間調整をしながら業務を行うために、業務時間の確保と月中行事予定と計画提示（いつ・だれが・何を）を早目に示す。	・教職員アンケートの肯定的評価の割合を90%以上にする。（4段階評価） 「仕事にやりがいを感じる」 「働きやすい職場である」 「自分は心身ともに健康である」 「自分はワーク・ライフ・バランスを大切にしている」 「困ったとき・悩んだときに相談できる人がいる」								